

単元指導計画「ひきざん」全9時間

備	時	本時のねらい	主な学習活動	評価規準	個に応じた指導
ひきざん 1	1	何十ー何十(50-20)の計算は、10を単位にして考え、1位数の減法と同じように計算することができる。	<p>【問題】おりがみが50まいあります。そのうち20まいつかいました。おりがみがなんまいのこっているでしょう。</p> <p>・式を立てる</p> <p><目あて> 50-30のけいさんのしかたをブロックをつかってお話ししよう。</p> <p>【考え】 ブロック操作をしながらお話をします。 【交流】 隣同士→全体へ 10が5-2=3だから30</p> <p>《まとめ》 「なん十ーなん十」のけいさんは、10のいくつぶんとかんがえてけいさんするとよい。</p> <p>・力試し P, 22 えんぴつ①②</p>	<p>【数学的な考え方】 10の集まりが(5-2)個分と考え、10が3個で30になることをブロックでお話しすることができる。</p>	<p>□まずき ・10を基にして考えることや説明ができない。</p> <p>【手立て(考え)】TT ・それぞれ10のいくつつかを問い、ブロックの10の集まりを操作しながら1位数の(5-2)を思い出させる。</p>
	2	くり下がりのない2位数どうしの減法(56-24)の計算方法を理解し、筆算で計算することができる。	<p>【問題】めぐみさんおりがみを56まいもっています。きょう24まいつかいました。おりがみがなんまいのこっているでしょう。</p> <p>・式を立てる。</p> <p><目あて>56-24のけいさんのしかたをブロックをつかってお話ししよう。</p> <p>【考え】 ブロック操作等しながらお話をします。 【交流】 十の位は 50-20=30 一の位は 6-4=2 合わせて32 それぞれ同じ位同士をひけばよいことが分かる。</p> <p>《まとめ》 2けたのひきざんは、同じへや同士でひけばよい。</p> <p>【力試し】 P, 25のりんご問題・えんぴつ③ 【確認】 56-52の場合、十の位には0を書かない。</p>	<p>【数学的な考え方】 10のたばが(5-2)で30個、1のバラが(6-4)個で2個あり、同じ位同士を引いて32になることをブロックを使ってお話し、筆算においても同じ計算方法がつかえると考える。</p>	<p>□まずき ・一の位と十の位のブロックを分けて考えることができない。</p> <p>【手立て(考え)】TT ・一の位と十の位のブロックの位置を明確にすることで、一の位と十の位のブロックをそれぞれ分けて考えさせる。</p>
	3	くり下がりのない2位数までの減法(79-6、48-8)を筆算で計算できる。	<p>【問題】79-6、48-8をひっさんでけいさんしよう。</p> <p>前時までの学習とくらべる。</p> <p><目あて> ひっさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>【考え】 説明の仕方をノートに書く。 【交流】 位をそろえて書く。一の位が0の時は、0を忘れずに書くことを確かめる。</p> <p>《まとめ》 ひっさんではくらのへやをそろえてけいさんすればよい。</p> <p>【力試し】 P, 25 えんぴつ④</p>	<p>【表現・処理】 79-5は同じ位同士を引くのだから、7はそのまま変わらず、1の位だけを計算することができる。48-8は同じ位同士を計算すると一の位が0になり「0」と書くことができる。</p>	<p>□まずき ・位を間違えて書く</p> <p>【手立て(考え)】TT ・筆算に縦線を入れ、位取りをわかりやすくする。</p>
ひきざん 2	4	くり下がりのある2位数どうしの減法(56-27)の計算原理や方法を理解し、筆算で計算できる。	<p>【問題】わかざりをつくります。かずおさんはわを56こ、めぐみさんはわを27こつなぎました。2人がつないだわの数のちがいはなんこでしょう。</p> <p>式を立てる。</p> <p><目あて> 一のくらいがひけないときのけいさんのしかたをしかたをかんがえよう。</p> <p>【考え】 ブロック操作をしながら考える。10の束 【交流】 一の位がひけない時は、十の位から1つ借りてきて16-7をして9になり、十の位は10の束が4-2=2個分になる。したがって答えが29になることを確かめる。</p> <p>《まとめ》 一のくらいでひけないときは、十のくらいから1くり下げてひくことができる。</p> <p>【力試し】 P, 27 えんぴつ①</p>	<p>【数学的な考え方】 ・一の位からひけない時には、十の位から1を繰り下げてひくことをブロックを使ってお話しできる。 【表現・処理】 ・手順を間違えないようにして計算ができる。</p>	<p>□まずき ・一の位からひけない時、引く数から引かれる数を引いてしまふ ・十の位からくり下げる時、しるし等をつけ忘れ答えを間違える。</p> <p>【手立て(考え)】 S1(とんとん) 説明をしながらブロックを動かす。 S2(じゅくり) 10の束をバラにするブロック操作と筆算をつなげて考えさせる。</p>

ひきざん 2	5	くり下がりのある2位数-1位数の計算を筆算でできる。	<p>【問題】40-3、61-5のけいさんをしましょう。</p> <p>前時までの学習と比較する。</p> <p><目あて> 40-3と61-5のけいさんのしかたをひっさんでできるようになろう。</p> <p>【考え】 筆算で考える。</p> <p>【交流】 相手にわかるように、話す順番を間違えないように話す。</p> <p>《まとめ》くり下がりのあるひきざんは、十のくらいから一くり下げてひくことができる。くらいをそろえることがたいせつである。</p> <p>【力試し】 P、28えんぴつ②</p>	<p>【表現・処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1の位でひけない時には、十の位から1をくり下げてひくことを、声に出しながら筆算で計算できる。 <p>【つまずき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・61-5の時1くり下げて11-5をせず10-5をして1を足し忘れる。 <p>【手立て(考え)TTT】</p> <p>○で囲む。</p> <p>【手立て(力試し)】</p> <p>S1(とんとん)全問+αに挑戦 S2(じゅくじ)(1)(3)に挑戦</p>
	6	何十一2位数や、くり下がりのある2位数-2位数で差が1位数になる計算を筆算でできる。	<p>【問題】40-23、66-58のけいさんをしましょう。</p> <p>前時までの学習と比較する。</p> <p><目あて> 40-23、66-58のけいさんをひっさんをつかかってかんがえよう。</p> <p>【考え】 筆算で考える。</p> <p>【交流】 筆算の形式について、くり下がりを忘れない方法を話し合う。(筆算の中に移動があったことを書き込む)</p> <p>《まとめ》くり下がりのあるひきざんは、十のくらいから一くり下げてひくことができる。くらいをそろえることがたいせつである。</p> <p>【力試し】 P、28えんぴつ③</p>	<p>【表現・処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1の位でひけない時には、十の位から1をくり下げてひいて計算できる。 <p>【数学的な考え方】くり下がりを忘れないための工夫を話し合い、自分なりの方法を身につける。</p> <p>【つまずき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・66-58の時、1くり下げて16-8をせず10-8をして6を足し忘れる。 <p>【手立て(考え)TTT】</p> <p>○で囲む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十の位が空位になる時0を書く。 <p>【手立て(考え)TTT】</p> <p>「08」にはしらない。何も書かないことを押さえる。</p> <p>【手立て(力試し)】</p> <p>S1(とんとん)全問+αに挑戦 S2(じゅくじ)(1)(3)に挑戦</p>
	7	減法では、差+減数=被減数が成り立つことを24-9=15、15+9=24を実際に計算することで理解し、計算の確かめに用いることができる。	<p>【問題】きょうしつに24人いました。9人がそへあそびひきました。きょうしつにのこっている人はなん人でしょう。</p> <p>式を立てる。答えが合っているかどうかもちかめよう。</p> <p><目あて> ひきざんのこたえがあっているかどうかをたしかめるほうほうをかんがえよう。</p> <p>【考え】 ノートに考えを文や式で書く。</p> <p>【交流】 「こたえ」と「ひく数」をたすと「ひかれる数」になることを確かめる。</p> <p>《まとめ》「こたえ」+「ひく数」=「ひかれる数」になればひきざんのこたえはたしい。</p> <p>【力試し】 P、29えんぴつ④</p>	<p>【表現・処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差15、減数9、被減数24の関係がわかって、答えの確かめに用いることができる。 <p>【つまずき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差を出すことはできるが、差や減数、被減数の関係が理解できておらず、答えの確かめをすることができない。 <p>【手立て(交流)】</p> <p>ブロック操作を通して、逆から考え、差+減数=被減数になることをたしかめさせる。</p>
	8	学習したことを元に習熟を図る。	<p><目あて> いろいろなもんだいを、ひっさんをつかかって正しくやってみよう。</p> <p>P、30 「れんしゅう」に取り組む。</p>	<p>【表現・処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習した減法の計算方法「同じ位同士での計算、くり下がり」に気をつけて正しく計算することができる。 <p>【つまずき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位をそろえることやくり下がりを忘れる。 <p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1年生の時の)1□-1位数の計算のふりかえりをさせる。
	9	学習したことを元に習熟を図る。	<p><目あて> じぶんでひっさんもんだいを作ろう。</p> <p>【問題】6この数字でひっさんをつくらう。</p> <p>【考え】 P、31「やってみよう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを使って考えながら筆算に当てはめたり、当てはめてから正しいかどうか確かめをしたりしながら、正しいひっさんを作る。 	<p>【表現・処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の加減法の計算方法を用い、どのようにカードをおけば正しい筆算ができるか考え、カードを並べることができる。 <p>【つまずき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの仕方が分からない。 <p>【手立て(考え)】</p> <p>S1例を示し、やり方を確認する。 S2早くできた児童には、足し算や引き算の筆算を自由に作らせる。</p>